

中国朝鮮族の母語・国家語に 関する言語意識調査

— 瀋陽市在住朝鮮族を対象に その1 —

中田 敏夫

はじめに

中国では、少数民族の自治区等（州・県・郷）では原則としてすべての小学校、中学校で少数民族の母語教育が行われている。また少数民族の多い地区には少数民族のために彼らの母語で教育を行う学校が設置されている。しかし国家語である中国語と少数民族の母語との調和的關係は実際にはどうなっているのか、各少数民族の国家語・母語に対する言語意識はどのようなものなのか、そして実際の言語運用はどうなっているのか。文化大革命の時期には東北地方で民族教育がほぼ全面的に否定され、母語を失った少数民族が生まれた事もある。中国における少数民族の母語保持政策の現状と、その背景にある思想はどのようなものなのだろうか。中国の少数民族教育の状況と中国国家の言語政策については岡本雅享『中国の少数民族教育と言語政策』（2008年増補改訂版 社会評論社）に詳しいが、実際の現代中国社会を考えたとき、少数民族の自立とアイデンティティの確立のために国家がどのように機能し、教育の体系を作ろうとしているのかということが問われると同時に、圧倒的な漢族社会の中で、経済的成功を含む社会の一員として強く豊かに生きていくために少数民族の人々は、どのように戦略的に言語習得を行っているのか。様々なことに興味と疑問がわいてくる。

1990年の「出入国管理及び難民認定法」の改正以来、日本では外国人労働者が増え、全国の外国人登録者数は2007年末現在約215万人あり、これは総人口の1.69%を占めている。中でも愛知県は外国人労働者の割合が高く、2007年末約22万人、県の総人口の3.02%であり、全国平均の倍近い。これより外国籍住民が日本社会に着実に定着していつている状況を知ると同時に、他県に比べ愛知県が集住する地域であることがわかる。またこの数は、当然ながら、愛知県の公立小中学校に多数の外国人児童生徒が就学していることを示すものでもある。このような外国人の在住状況から、既に日本社会は、少なくとも愛知県の地域社会においては互いの文化的違いを認め合い共生すべき時代を迎えていると考えるべきところである。外国人児童生徒の日本語教育及び教科教育の学習に加え、地域

の学習者全員（就学前児童生徒、就園就学児童生徒、高校生）への教育支援等を通し、地域住民相互が対等な関係を築き、豊かな多文化共生社会を実現することが重要な課題となっていると言えよう。しかしながら、国家－民族－言語が比較的単線系できた日本社会（勿論アイヌ系住民や在日中国・朝鮮・韓国人の人々の存在などはある）にとって、多文化共生社会の具体的な姿が見えないのが現状である。

世界を眺めたとき、将来の日本の地域社会のモデルとして考えられる共同体はいくつかあるだろう。具体的に浮かぶひとつが中国の少数民族である。冒頭に記したように、現在中国社会では、国家政策として少数民族の母語保持が認められ、教育に活かされている。そのような政策と政策の実施の過程をつぶさに見ていく必要のあるところではあるが、少数民族の人々の言語意識を調査することで、その課題の糸口にしていく可能性を考えたい。本稿は、中国の数ある少数民族のうち朝鮮族を採り上げ、母語と国家語に関する意識と使用状況を明らかにするために行った調査の報告である。対象地域としては朝鮮自治区である延辺地区を選ばず、しかしながら朝鮮語の母語教育を行う学校を市内に持つ都市に在住する朝鮮族を採り上げることにし、その都市として瀋陽市を選んだ。

もちろん、中国少数民族は中国という国家を形成する国民である。一方、日本に在住する外国人労働者及びその児童生徒は日本以外に国籍を持つ。したがって同列には述べられないが、入管法の改正から20年が経ち、日本で生まれ育ち母国の言語が話せない子ども達が次々と誕生している。彼らの母国語はポルトガル語であり、タガログ語であるが、生まれ育った地で身につけたことばを母語と呼ぶとすれば、彼らの母語は日本語と呼ばれることになる（中には母国語とのバイリンガルの子どものもいるだろう）。これは中国朝鮮族も同様であり、都市在住の新しい世代は母語としての朝鮮語が使えなくなってきている。次はそのような指摘ができる聞き書き資料の一部である（後掲資料参照）。

Q：大変失礼なんですけど、ご結婚されてお子さんがいらっしゃるんですか？

(A：はい。)で、ご主人は朝鮮族の？

A：違います。

Q：なるほど。そしたら今、今はご家庭ではもちろんもう中国語で。

A：はい。

Q：じゃあお子さんも当然、もう、もう朝鮮語はだめですか？

A：全然わからない。

Q：そうですか。なるほどね。そういう人は増えていくんでしょうね、これから。

A：いるんですね。でも、そのケースはですね、私の場合はですね、それがですね、ちょっと私の友達とかいろいろ聞いているんですけど、子どもたちにはですね、朝鮮語の勉強をさせているんです。でも、家に帰ったら、またみんなですね、その、学校とそれがまた違うんです。が、通ってる学校が中国語

の学校とか、そのケースが今多いんです。今。ですから学校では全部、ま、漢民族の世界で生活しまして、家に帰ってですね、ま、急に朝鮮語に変えてですね、いろいろ会話させたりしましても、子どもには迷ってしまう時も結構多いんです。

A自身は朝鮮族出身の両親のもとで育つが、結婚した相手が漢族であり、娘は漢族の学校に通わせたため、学校では中国語、家庭でも中国語になっていて、娘は朝鮮語ができないと述べている。このケースは漢族と朝鮮族の両親の中で育つ若者の事例だが、朝鮮族社会の中で朝鮮語が失われていく一つの型を示すものであろう。

日本に在住する外国籍児童生徒がこれから日本国民を形成するかどうかは彼らの自由意思に任されており、この点で、国家国民を形成する中国朝鮮族の置かれた母語と国家語の関係とは根本的な相違があるが、母語あるいは祖国語を喪失しつつあるという点では両者は共通するのである。中国朝鮮族の現状を通して外国人児童生徒にとっての母語と国家語・祖国語（母国語）との関係、日本の公教育の場における外国人児童生徒への教育、あるべき社会的対応などの指針を得る契機にできたらと考える。

本稿は、2010年3月中国遼寧省瀋陽市において、朝鮮族出身である遼寧大学の学部生、大学院生、教員に対し言語意識を中心に行った聞き取り調査の報告となる。本稿は中田が調査票（後掲）を参考に日本語でインタビューしたものの書き起こし分である。報告の残り（中国人調査者が中国語で行った4名分）は次号に掲載予定であり、全体の調査結果の分析もそこで行う。

本調査には、遼寧大学日本研究所王鉄軍先生、同大学外語学院金玉順先生、北京語言大学継続教育学院李晶波先生に協力をいただいた。記して感謝申し上げます。

【調査の概要】

- ・調査場所：中国遼寧省瀋陽市内
- ・調査日：2010年3月15日・16日
- ・調査対象：中国朝鮮族出身者3名

A：1965年1月7日生まれ、女性、朝鮮民族学校・遼寧大学卒業 大学教師。

B：1987年12月5日生まれ、女性、遼寧省内民族学校卒業、中学2年のときに漢族の学校に転校し、高校も漢族の高校に。遼寧大学学生。

C：1986年9月21日生まれ、男性、小学校瀋陽市内民族学校卒業。遼寧大学卒業後、日本語・朝鮮語教師に。

【調査方法並びに調査票】

調査の方法として2種類設定した。一つは以下に示す「①質問項目」である。

(4)

これは事前に大まかな質問事項を定めて、回答者の答えに従ってさらに追加的な質問を加算していく半構造化インタビューである。もう一つは同じく「②アンケート項目」として示した一問一答式の構造化インタビューである。これは、結果を対照することでより一般化することもねらい、趙南実「中国朝鮮族の民族語に対する言語意識からみるアイデンティティの考察－延辺大学における質問表調査を通して－」（杏林大学大学院国際協力研究科「大学院論集」No.4 2007.3）に記載された項目を参考に作成している。

【聞き取り調査の基にした主項目】

①質問項目

- 0) 基本項目；名前・生年月日・現在の所属・幼稚園、小学校、中学校、高校・教育言語が中国語か朝鮮語か。
- 1) 朝鮮語・中国語をどのようにして覚えたか、それぞれの現在の使用状況。
- 2) 家族に関して；家族構成・生計（親の職業）・親戚関係との交流
家族間・親族間での使用言語（朝鮮語しかできない人がいるか、どうか）。
朝鮮族らしい風俗・習慣はあるか（旧正月・行事など）、祖父母から聞いた昔話・民話はどうか。
- 3) 地域との関わり；朝鮮族の人々との交流
地域の朝鮮族との使用言語（朝鮮語しかできない人がいるか、どうか）。
地域に朝鮮語の読み書きを学ぶ学校（公立の小・中学校、補習学校、ほか）はあるか。
娯楽（雑誌、映画、民謡、流行歌）など朝鮮族的な特徴はあるのか。
- 4) 学校（幼稚園・小中高校）での様子；規模（先生児童数・学級数）・先生の言葉、子ども達の言葉・遊びの種類（朝鮮族の遊び・漢族の遊び）・かけ声（朝鮮語・中国語）
友達との使用言語（朝鮮語しかできない人がいるか、どうか）。
担任・その他の先生（朝鮮族の先生か漢族か）。
教育の内容（朝鮮語の授業・中国語の授業、印象に残っている教材）。
言語習得上、何がむずかしかったか（中国語・朝鮮語）。
- 5) 朝鮮語・中国語について考えていることを自由に。

②アンケート項目

- 1 自分の朝鮮語能力；満足している・満足していない・どちらでもない
 - 1.1 家庭での使い方として
 - 1.2 一般の日常生活（外出先）で
 - 1.3 公用語（読み書きを含め）として
- 2 朝鮮語ができると生活上有利だと思うか；有利・そうは思わない・どちらでもない

- 3 朝鮮語が自分にとって将来プラスになると思うか；同上
- 4 中国に住んでいるのだが、朝鮮語ができなくてはいけないか；できるべき・できなくてもいい・どちらでもない
- 5 韓国語が上手な人に対してどのような印象を持っているか；うらやましい・民族意識が強い・不自然だ・よい感じがしない・何も感じない
- 6 中国朝鮮族の朝鮮語に対して；朝鮮語は知らない方がいい・どちらでもいい・知っているべきだ・できて幸せであり誇りである
- 7 将来自分の子供や孫に朝鮮語を習わせることについて；とても反対・反対・どちらとも言えない・賛成・とても賛成
- 8 外国語学習のとき一番学びたい外国語は何語か。
- 9 次の場面でどのことばを一番多く使うか。
 - 9.1 公用語（改まった場面。会議など）；
中国語のみ・中国語の方が多い・半々・朝鮮語の方が多い・朝鮮語
 - 9.2 日常用語（買い物・郵局・役所など）；同上
 - 9.3 家庭用語（家族との会話など）；同上

1 話し手 A（1965 年生まれ・女性）

話し手 B（1987 年生まれ・女性）

Q；最初に、B さんのお父さんお母さん、家族の中では、言葉は何語を使っていますか？

B；やっぱり朝鮮語ですね。私は中学校 2 年生であった時転校しました。大連で朝鮮族の学校がただ一つだけです。それで、中学校 2 年までこっちで習って、漢族の学校に転校しました。でも家ではやっぱり朝鮮語だと思っています。でも、中国語でも使います。

Q；中 2 の時に漢族の中学校に変わった、その理由は何ですか。

B；その理由は、冬休みの時、中学校 1 年生であった時かなあ。塾ですね。塾で勉強しましたが、でも、中国語で先生が授業をしたんだけど、ちょっと本当にピンとくる感じではないんです。だから、あの、反応する時間が、あの、朝鮮語と違うと思って、だからやっぱり漢族の学校に変わったらどうかと思って、変わりました。

Q；そうすると、小学校は朝鮮族の学校に行ったわけですね。（B；はい。）そうすると、その時の学校は、授業は基本的には朝鮮語でやったんですか？中国語ですか？

B；基本的には朝鮮語です。でも中国語の授業もありました。

Q；小学校の時から？

(6)

B：はい。だから、普通は、朝鮮語。でも、中国語の授業もあったです。

Q：じゃあ、算数っていうか数学とかそういうのは全部朝鮮語でやっていて、(B：はい。)じゃあ、朝鮮族の自治区の学校と同じように、朝鮮語を中心にやったわけですね。(B：はい。)そうすると大連で家の中では、その家庭の中では朝鮮語？(B：はい。)で、友達とはどうですか？

B：友達とは、朝鮮語を使う人もあるし、中国語を使う人もある。時には、中国語も朝鮮語も混じって。

Q：それは朝鮮族の友達との話ですね。(B：はい。)当然、小学校には漢族の子どもはいないですよ。(B：はい。いないです。)小学校を朝鮮族の学校に入ったのはお父さんかお母さんの勧めですか？その時に、漢族の学校に行くこともできましたよね。

B：はい。だから、当たり前じゃないですか、朝鮮語の学校に入るのは。うちのお父さんとお母さんはですね、朝鮮族だったら朝鮮語は絶対使うように。はい。

Q：なるほど。だけど、大連の街で例えば買い物をしたり、そういうのは朝鮮語では難しいですね。お店で買い物をする時とか・・・

B：大連では朝鮮族もいっぱいあるんです。はい。東北地方では朝鮮族はいっぱいいますね。

Q：だと、街の中で買い物をしたり、そういうのも朝鮮語でやりましたか？

B：はい。あの、大連にはゴント広場(?)という街があるんですけど、あの店ではキムチとかコチュジャンとか、それを売る人がいっぱいなんで。朝鮮族を使って。朝鮮族なんですね。(Q：そういうメリットね、あるんですね。)はい、でもやっぱり親切ですね。同じ民族だから。

Q：同じ仲間ですからね。(B：はい。)そうすると、当然家族だけではなくて、おじいちゃんおばあちゃん、それから親戚の人とも朝鮮語で会話をしますか。(B：はい。そうです。)で、親族の中では逆に朝鮮語しかできない人っていうのはいますか？中国語ができないっていう人は？

B：一切できない人はいませんね。ある意味、少し、でも、おじいちゃんとかおばあさんとかお年寄り、あの、あんまり上手ではありません。

Q：次におじいちゃんおばあちゃんとかから、昔話、それから童謡、歌ですね。子どもの歌。そういうのはやっぱり朝鮮語で？

B：はい。そうですね。でも、私はおじいちゃんとかおばあさんとか、子どもの時の記憶はまだ残っています。

Q：そうすると、朝鮮の昔話って、やっぱりそういう有名な、そういう物語とか・・・

B：あー、有名な物語とか、そうですね。ちょっと考えさせてください。

Q：はい、わかりました。そうすると、Bさんが住んでいたお父さんお母さんの所ですが、その地域は、わりと朝鮮族の人が多い地域ですか？

B：今、大連は、うーん、集中しているわけではないですけども、あの、お父さんの友達は、あの、朝鮮族のあるんですよ。

Q：Bさんは小学校入ってから、書いたりするのをずっと朝鮮語で勉強できたわけですね。(B：はい。) そうすると、自分の朝鮮語能力ですね、家庭での朝鮮語の能力がもちろん高いって言うか・・・

B：はい。そうですね。

Q：はい。それから、外出先で外へ出て行った時も朝鮮語を使うことで、問題があるとかな自由してるとか、そういうのはない？

B：はい。ないです。

Q：それから、もし、朝鮮語でスピーチをしたり、演説をしたり、そういうのも問題ない？

B：はい。やっぱりないです。

Q：あー、そうですね。バイリンガルのようにあると思うんですが、(B：はい。) 朝鮮語と中国語だったらやっぱり朝鮮語のがやっぱり・・・

B：ピンとくる。

Q：じゃあ、考えたり、文章を書いたりっていう時は、やっぱり朝鮮語が出てきますか？

B：はい。私の方は朝鮮語です。

Q：そうですね。では朝鮮語ができると、中国のこの社会の中で生活をしていく上で、有利って言うのか、そのメリットが大きい？

B：はい。

Q：有利だと思いますか、逆に、別にそんなどちらでもないか。どうですか？

B：はい。有利だと思います。羨ましくて、友人たち。すごいなあ、朝鮮語が出てくるから。とっても嬉しいです。

Q：それから、朝鮮語があなたの将来にとって有利になるというか、プラスになると思いますか？

B：はい、そうです。

Q：それって例えばどういう場面で？

B：就職についても、韓国の会社がいっぱいあるんですね。大連にも。だから、私も日本語だけではなく、卒業したら韓国の企業でも入ることができるんじゃないですかと思っています。

Q：そうですね。中国に今住んでいて、朝鮮族のあなたは考え方として、朝鮮語っていうのはやっぱりできるべきだっていうか、できなくてはいけないっていうふうに思いますか？それとも、朝鮮族だけれども朝鮮語はできなくてもいいじゃないのかって思うか、どうですか？

B：私はですね、朝鮮族だったら絶対出来ればいいんじゃないかって思っていま

(8)

す。やっぱり自分の民族の言葉ですから、愛して、守って、そんなふうにあつるのがやっぱりいいんじゃないかと思っています。

Q；それから、あの、韓国語と朝鮮語の違いっていうのはわかります？

B；はい。

Q；感じますか？

B；感じます。韓国語はやはり外来語が多いんですね。英語の外来語がいっぱいあると思います。

Q；そうすると、韓国語が上手な人っているんですか？（B；韓国語が？）うん。そういった外来語を使って韓国語風に喋る、そういう人はいませんか？

B；ある時は、あの、韓国語を使っています。はい。そんな傾向があるんです。私は。はい。

Q；じゃあ、そうやって、まあ韓国語がまあ上手な人がもしいたとして、その韓国語を上手に使うそういう人に対して、あなたは羨ましいなあと思うか、ちょっとそれはおかしいよねっていうふうと思うか、あんまり良い感じがしないって思うか、そこらへんはどうですか？

B；あの、嫌うわけではないんです。韓国人も同じ民族じゃないですか。だから中国にいる韓国人はですね、あのやっぱり、外国人ですね。だから、自分のあの、国ではないところにある時、自分の、配慮してくれるというのは、私だったら心が温まるのではないかと思ってまして。はい。

Q；では、まあ、韓国出身の人がいたら、やっぱり韓国語をもし知っていれば使っていてあげて、（B；はい。）それで会話をしてあげる方がいいという。（B；はい。）なるほど。それから、もし韓国語に対して、中国の朝鮮族が普通に使っている朝鮮語についてですが、この朝鮮語はやっぱり、自分ができることはとても幸せで、誇りだと思うか、別にそうは思わないか、そこら辺はどうですか？

B；はい。そうですね。はい。誇りだと思っています。

Q；それから、もし将来、自分の子どもや孫。孫はまだですが、朝鮮語を習わせることについては、やっぱり習わせたいって思うか、それとももう朝鮮語は習う必要がないんじゃないかって思うか。

B；はい。習わせたいです。

Q；はい。わかりました。朝鮮語ではないんですが、外国語をもし学習する時に、一番学びたい外国語は何語ですか？

B；日本語です。

Q；わかりました。それから、先ほど自信があるかどうかを聞いたんですが、家庭ではもう本当に朝鮮語だけを使ってるということですね。

B；はい。

Q；それから、外出した時は、朝鮮語を使う時もあれば中国語を使う時もある？

B：はい。

Q：お店によってで（B：はい。）、中国語を使うっていうのはもう、お店っていうのはやっぱり朝鮮族のじゃないなって思った時にですか？

B：そうですね。

Q：これ中国語使った方がいいなっていう。（B：はい。）それから、さっきこれも聞いたんですが、今中国語でこういうスピーチをしたり、みんなの前であいさつをしたりというのは、朝鮮語はうまくできるということでしたけれども、中国語はどうですか？

B：中国語は、自信はありますけれども、中国語のあの詩ですね、詩とか、あの、ツと言いますけども、古い時期のあの、そんなこと私にはちょっと難しいと思ってます。

Q：あー、なるほどね。そうすると、漢族の人たちの中国語と、自分の中国語の違いっていうのはどういうところで感じますか？今、詩だとかってありますけど。そのほか。

B：あの、以前は感じたことはないんですけども、あの、大学に入ってから、あの、私の中国語喋る時、この順序がですね、あの、日本語でもそうではないですか。前ですね、形容詞が。例えば、「ご飯を食べる」は「ご飯」が名詞なんですね。だから朝鮮語もそれで。でも、長いセンテンスと言いますか、これを喋るとき、へ？ってとか、（Q：どうしても朝鮮語の）はい。朝鮮語の（Q：母語干渉っていうか。）はい。考えでこれを。

Q：朝鮮語で作ることがある？

B：はい。時々そんなことがあるんです。でも、あんまり気にしなくてもいいんじゃないかと。

Q：ものを考えたりするのはやっぱり朝鮮語がやっぱり。

B：はい。そうです。

Q：それをちょうど翻訳するような、あ、それでもバイリンガルは違うかなあ

Q：もう中国語で考え出すともう中国語で。

B：はい。私は喋るときは感じたことないんですが、喋った後「へ？」って。この順序はちょっとおかしいなって思って。

Q：あー。なるほどね。基本的にお聞きしたかったことはこれくらいなんですけど、あの、朝鮮族の、言葉だけじゃなくて、習慣とかもともと持っている文化とかそういうものっていうのは、どのくらい残っているのか残っていないのかをちょっと知りたいんですが。そこら辺、漢族のそういったものと、朝鮮族のものとはやっぱりいろいろ違いがあるんでしょうか。生活の中でやっぱり漢族とは違うなっていうのがあるんでしょうか。

B：漢族との違いですね、あの、飲食の方が、朝鮮族は辛いものが好きなんです

ね。でも漢族は四川省でも辛いもの好きなんですけれど、辛い、やっぱり違うんですね。でも、そんなに分けて、違う・・・だから、私たちは特にそんなことはないです。

Q：高校はもちろん漢族と一緒に高級中学ですか？そのまま中学はそのまま高級中学へ行くんですか？もう一度試験受けるんですか？

B：もう一度試験を受けます。

Q：その、また当然漢族の人たちと一緒にですね。(B：はい。そうです。)じゃあ、友達なんか漢族の友達がいっぱいできましたね？

B：そうですね。

Q：そうすると、今の大学の生活もそうですが、ま、日本語科ですけども、友達なんかとはやっぱり中国語の方が多くなりますか？

B：はい。少数民族ですから。

Q：少数民族って言えばそうですね。今小学校中学校がね、朝鮮の学校で学んだからあれですけど、地域によっては朝鮮族だけでも、朝鮮の小学校中学校へ行かない朝鮮族もいますよね。そこら辺どうですか？ま、大連ではあったってことですけど。そういう学校がない所って言うのはないでしょうか。そこら辺、A先生どうですかね。延辺なんかねもちろん、全体が自治区ですので、当然そういう学校もいっぱいあるはずですけども、その、大連とか・・・

A：たぶんそれも個人の差があるんじゃないかと思います。一応ですね、もしやっぱり昔の伝統にですね一応こだわっている人の場合はですね、たぶん、必ずですね、自分の民族の学校に行かなければいけないとか、民族の誇りとかそういうものを持ちまして、たぶんですね、強い決意で行っている人も。だから、親の気持ちに従ってですね、行く人も多いんじゃないかと思います。でも代わりにですね、今、もし先ほど先生がおっしゃったようにですね、近所にもしその、例えば朝鮮族の学校がなかった場合はどうするかっていうことなんですけど、たぶん今のこの時代は、10年前、20年前に比べましても結構変わっているんです。たぶん20年前までもですね結構、やっぱり朝鮮族の人であればですね、必ず、いくら遠くでもですね、朝鮮族の学校に行かなければいけないとか、それが結構強く一応言われたんです。で、大学までですね、やっぱり高校までの義務教育の段階におきましてもやっぱり、いくら遠く離れている学校であってもですね、自分の朝鮮族の学校を訪ねてましてですね、行くという人が昔は多かったと思います。でも、今のこの世界に変わって、だんだん今移り変わってですね、結構あんまりそんな昔のですね、しきたりにこだわらない人も多くなっているような感じもします。ですから別にですね、必ずしも朝鮮族の学校に行くか、そうじゃなくて、かえって今の見込みと言うかですね、その、やっぱりですね、全体の学校のレベルから一応比べましてですね、レベルの高い学

校にですね今望んでる方が強くなっているんです。ですから、別に学校の民族とかそれにこだわらなくてですね、みんな同じ、仲間同士という感じで、それで一応ですね私の場合は、この学校はエリート学校とか、エリート出身と言いまして、そのコースに入ってしまう。ですからたぶん今の学校でありましても、エリート学校で、たぶんですね、漢民族に限らずにですね、いろいろです、いろいろな民族の人たちが全部入ってですね競争していると思います。だからその段階で言いましたら、みんな同じスタートというですね、その段階でスタートしているんですから、学んだこととか、聞いたり勉強していることが同じなんです、同じ教育を受けた以上はですね、あまり差がないと思います。逆に言いましたらですね、たぶん先ほどBさんも言いましたようにですね、その、昔の自分の少数民族の学校に行きましたらたぶんですね、あの、学校の段階、教育レベルというかですね、その段階ではまだいろいろ差があると思います。ま、学校の、学校の先生の質もまだもう一つあるんですけど、ま、一つの少数民族としまして、その学校で行っているですね、勉強としましたら、たぶん、例えば中国語の今さっき先生が調べているですね、中国語の勉強としましたら、ま、この少数民族として覚えている中国語とですね、それから、あの、漢民族、もっぱら漢民族の学校で行く、行って勉強する中国語と全然レベルが違います。ですから、今の若い人たちはかえってですね、その、ま、みんなと同じ段階に入ってですね、同じ競争力を持ちたいという気持ちが今強くなっているんです。ですから、えー、何か、今の民族という出身としましてもですね、ま、ただ、あ、彼はその出身とか、その人その出身とか、ま、ただその一つの看板だけになってしましまして、もう、昔みたいにですね、必ず将来は漢民族の人と結婚してはいかんとか、ハハハ。昔はそうですね。ま、昔は結構言われましたんですね。ですからそういうことが今段々今たぶん薄めているという感じがあります。

Q；なるほどね。そうですね。僕はね、その時に、その漢族の学校を出た朝鮮族ね、若者たちは、朝鮮語の書く力とかがどうしても弱くなりますよね。その人たちのために学ぶ学校とか、塾とか、そういうのはあるんですか？

A；ありますね。(Q；例えば大連とか。)瀋陽にはあるんですけど。でも、それもですね、個人でやっている人もいますしですね、また、もう何かの社会、成人教育とかそういう時空の方に行きまして、ここではですね、たぶん、中国語コーナーとか、日本語コーナーとかそういうコーナーがいっぱいあるんじゃないか、中国では朝鮮語とは言わないですね。韓国語コーナーとか、そういうコーナーを作っているんです。それで、そこでもですね、でも、朝鮮族の人が行くよりはですね。漢民族の人たちが行って学びたいですよ。意外に多いんです。

Q；要するに少数民族のための学校、塾っていうよりも、そう言った外国語教育っ

ていうか、外国語を学ぶものとしてそういった韓国語と・・・

A：それが今かえてそういうような今ケースになっているんです。

Q：でもそういう所に行くんじゃ、朝鮮族はほとんどいない？

A：いないです。

Q：そうすると、将来的にはハングル・・・文字が書けない朝鮮族も出てきますよね。

A：たぶんその恐れもあると私は思います。例えばですね、一応、私の場合としましたらですね、あの、高校までもですね全部、ま、朝鮮族の所属の学校に通っていたんですけども、(Q：先生はどこのご出身ですか?)ま、瀋陽。瀋陽の学校を出ましたんですけど、でも、授業の時、先生の授業は全部朝鮮語なんですけど、先生、言葉のメモは、全部漢字の方のがですね、簡単でしょ。それをすべて全部中国語のですね、そのメモを取ってるんですね。ですから、たぶん個人差があると思いますが、私の場合はですね朝鮮語よりもですね中国語の方がもう楽なんです。一応。聞くのも読むのもですね話すのもですね、ま、やっぱり朝鮮語よりもこっちの方がですね、ま、得意という感じでですね。かえて、朝鮮語でですねスピーチされましても話しかけられましても、こっちの方が迷ってしまうんです。ですからたぶん住んでいる地域も、先ほど先生がおっしゃったように、地域によってですねそれもあると思ひまして、ま、その近所に人がいないですし、親の方もですねほとんど家の中でも全部中国語で話をしていました。(Q：あー、そういうご家庭で)ですからたぶんそれで、ま、一応名前だけで・・・純粋な朝鮮族の出身と言われましても、ま、本当にですね同化されてしまったというか。

Q：それは早いタイプの、これからのタイプを先取りして。

A：いやいや。でもそれよりもですねたぶん、こちらでもかえてですね、どういところをまだちょっとですね、まだ物淋しいところもあると思いますけど。一応ですね何か電話に出られたとき、ま、朝鮮族の人と聞きまして、急に向こうの何か国際電話が入った時、ちょっとかわりにですねちょっと電話に出てほしいとか言われましても、向こうの話が全然わからないんですね。ハハ。

Q：大変失礼なんですけど、ご結婚されてお子さんがいらっしゃるんですか？

(A：はい。)で、ご主人は朝鮮族の？

A：違います。

Q：なるほど。そしたら今、今はご家庭ではもちろんもう中国語で。

A：はい。

Q：じゃあお子さんも当然、もう、もう朝鮮語はだめですか？

A：全然わからない。

Q：そうですか。なるほどね。そういう人は増えていくんでしょうね、これから。

A：いるんですね。でも、そのケースはですね、私の場合はですね、それがですね、ちょっと私の友達とかいろいろ聞いているんですけど、子どもたちにはですね、朝鮮語の勉強をさせているんです。でも、家に帰ったら、またみんなですね、その、学校とそれがまた違うんです。が、通ってる学校が中国語の学校とか、そのケースが今多いんです。今。ですから学校では全部、ま、漢民族の世界で生活しまして、家に帰ってですね、ま、急に朝鮮語に変えてですね、いろいろ会話させたりしましても、子どもには迷ってしまう時も結構多いんです。で、また同じ・・・広く言いましたら、もう何世代とか渡りまして、こちらにたぶんみんな生活しているんですけど、一応はですね、この中国で生活している以上はですね、その文化に従うとかですね、それが、ひとつ、ま、一番利口なですね生き方の一つであるんじゃないかと私思っているんです。ですから、自分の文化をなくすんじゃなくて、やっぱり心の中ではですね、ま、やっぱりそれもいろいろメリットがあると思いますよ。やっぱり文化のですね、その流れということで。ですから、それを一応認めている一方ですね、やっぱり、この中国語はやっぱり・・・自分でもですね、やっぱりまだまだいろいろ十分じゃないとか足りないとかですね、これからまだ勉強しようとか、ま、そういう気持ちになってしまいますので。ですから、やっぱりもし両方の勉強としましたら、やっぱり中国語の方に行ってしまう。

Q：それはやっぱり当然中国では統一試験ももちろん中国語でね受けなくちゃいけないし、将来の就職のこと考えても中国でやっていく場合にはって。で、今お話伺ってよくわかったんですが、やっぱり、家庭で子どもがどこの学校に行かせるのかとか、家庭ごとの考え方っていうか、自分の子どもの将来を含めて、そういうのはやっぱり大きいですね。やっぱり。朝鮮語を家庭の中で話をする家庭と、だんだん子供の将来を考えて中国語で喋るようなそういう家庭とか。(A：うん。いますね。)そういうあの、増えてきているってことですかね。

A：ですから、昔みたいなですね、そういう強いその執着とかですね、それはもう段々無くなっているケースもあると思ってるんです。

Q：で、たぶん延边なんかの自治区とか瀋陽のような都会とは・・・

A：たぶん違うんじゃないかと思えます。

Q：こう、違いがあるんでしょうかね。そこからスピードが早いというのか。

A：でもまだこちらはですね、結構、ま、いろいろですね、地域が結構少数民族のこの朝鮮族の人たちが一応固まって生活している、ま、あるんですけど、でも一応ですねそう言われましても、必ずしもみんな朝鮮族の人たちが住んでいるわけではないんです。でも、昔からやっぱりその、結構多くの人たちが住んでいる地域があるんですけど、その地域に行きましても同じなんですけど、ま、一応喋ることにはなるんです。喋るように一応させるんですけど、でも勉強は

ちゃんとやる、中国語で勉強させるとか、そのケースが今多くなっているんです。

Q：ただ、学校が朝鮮族の子の学校では、朝鮮語で授業を進めるっていうのは当然基本的にはそれでいきますよね。

A：はい。

Q：そういう中で学校の取り組みっていうか、もうやっぱり将来の中国語がやっぱりできないと、将来がやっぱり厳しいので、学校自体もそこら辺変化はあるんですか？

A：んー、私の場合に言いましたらですね、その学校その当時ですね、学校、大学の試験を受ける時にも二つの種類なんです。あの、一つはですね、朝鮮語で申し込んで朝鮮語で返答する。そういうですね、そういうあの、試験を受けるんですね。で、もう一つはですね、朝鮮人、朝鮮族であってもですねやっぱり中国語でみんなと、漢民族の人たち同じように中国語で書く。あの、ま、答案を書くですね。そういう二つの種類ですね自分たちで申し込むんですけど。ま、私の場合はですね、その時私、ほとんど私と一人か二人くらいしかなかったと思います。ですから、多くの人たちはみんなまだ、みんな朝鮮語で答えて、ま、それを採点してもらったと思いますけど。もし、中国語で書きましたら、それはまた別の漢民族の学校の人たちと同じく、同じグループに入ってしまうから、そこで採点されるんです。ですから言われたんですよ。その採点はたぶんもっと厳しい。言われましても、やっぱりそれを書き表すとかですね、それにはちょっとこだわりがあったんですから、やっぱり、んー。この中国語の方がもっと楽だという思いもしまして。

Q：で、今朝鮮族、あ、朝鮮語で回答をしていく時に不利にはならないんですか？大学に入っていく時に。

A：不利にはならないです。ですから同じなんですよ。ただですね朝鮮族の人たちはですね、ま、言語と言いましたら中国の漢民族の場合はですね、中国語一つだけの試験なんですけど、こちらの場合は両方とるんです。ですから中国語とそれからもう一つ朝鮮族の言葉の勉強とかで、朝鮮語とか、その試験、この試験も全部とって、その二つが合わせの点数がですね、その一つの科目の点数になってしまいます。

Q：そういうちょっと微妙な調整をしながらやるってことですか。

A：はい。

Q：そこへ、こう平等になっているっていうことですか。そうですね。

A：で、それがですね、またマイナス面が先ほどBさんも言いましたようにですね、その、大学に来てですね初めて気がつく人が多くなっているんです。例えばですね、やっぱり言葉の表れ。表しとかですね、そういう所でなんとなくそ

のやっぱり踊っているとかですね、そういうところはやっぱり、言葉の勉強、学んだ量が少ないですから。ですから今の若い時代はですね、それをマイナスな、不利な方にできるだけ避けましてですね、ま、小学校時代からみんな同じようにですね、そのみんなと同じようにスタートで勉強させるためにも勉強させて同じ学校に行かせるんです。

Q：延辺大学っていうのは朝鮮族の、学校ですよね。でもあそこはもちろん全部先生方は中国語でやってらっしゃるんですよね。きっと。どう、どうですかね。朝鮮語で授業・・・

A：そこまではわからない。

Q：わかりませんよね。でも、僕前にフフホト大学へちょっと行ったことがあるんですけどね、そこではモンゴル語でやる先生が多いって言ってましたよ。あの、その、内蒙古大学ですか。

A：うちの方もですね、今内モンゴル系の学生が来てるんです。(Q：ええ。)がですね、内モンゴルもできるそうですけど、大学も内モンゴルの試験を受けましたと言っているんですよ。モンゴル語で。(Q：そう。そこで・・・)で、今も読めるし言えるし書けるし、ですから、その子たちの話を私一応聞きましたんですけど、やっぱり頭の中の回転がですね、ちょっと最初の頃はそれが慣れない子が多いんですね。ですから、それを、ま、普通の読み取る、読み取ってですね理解するまではあまり差がないと思いますけど、その言葉をですねまた、何と言うんですか。中国語に翻訳してですね、そいでこちらで別の言葉で言い表す時に、そこで差が出るんです。ですから、その、頭の回転、ま、この言葉日本語で話す場合は日本語の思いを持って、その日本の考えを持って、そこに入って、あの、立ち入ってですね、話さなければいけないし、またこちらの中国語の場合は中国語の世界に配して戻るんですね。ですから、そのピントが早ければ早いほど、ま、やっぱり多いんですね。その、その勉強量が。

Q：その、ま、あの、ちょっとね、延辺とこちらとではかなり事情が違うだろうし、朝鮮族、同じ朝鮮族の人でもね、違いがあるだろうと思いますけどね。一番知りたかったのは、今先生がおっしゃってくれたような、朝鮮族なんだけれども、民族としては朝鮮族なんだけども、言語としては漢語が中心になっていて、だけど、その時朝鮮語でもどうするのかっていうところでね・・・もし、ただ、今お聞きした限りでは、そういうための塾とかでは特にないわけですよ。例えば先生のお子さんの場合は、ま、ご主人との間で半分半分になっちゃってるから、朝鮮語を勉強させたいとか、そういう気持ちは。

A：んー、最初はですね、覚えさせようとかこちらでもですね頑張ったんですよ。(Q：あ、そうですか。)でも教えましたもですね、向こうの方がこだわってるんですよ。ま、覚えようとしないうちから。最初は。で、だんだん大きくなって

からですねやっぱり何かやっぱり、映画とか何かの、その影響ですね、だんだんその歌とかですね、たぶんそれもですね、ま、聞き慣れてですね、ま、覚えようという気になってですね、自分も覚えようという気になっていたんです。で、それはありがたいと思ましてですね、私の方がまだ覚えてるから教えようとしたんですけど、あなたとは勉強しないって・・・。お金かけてですね、そういう塾に通わせて覚えたんですよ。ちょっとぐらい。だから自分ですから、本当にこちらの方で強制的にさせるんじゃないくて、向こうで自分から勉強しなくてはいけなくなって、それで一応そういう学校にたぶん1ヶ月くらい通ってですね、ま、一番単純な、こちらの仮名みたいなそれを一応覚えていった、ま、一応読めるくらいまではきたんですけど、でも話すまではいけないんですね。

Q：それ何歳の時に・・・。

A：んー、ですからそれがですね、結構大きくなっていましたですから、もう高校になってからなんです。

Q：あー、そうですか。すごいなあ。でも、やっぱりお母さんの言葉をちょっと勉強したいと思つたんですかね。

A：いや。たぶんその気持ちは全然なかったんです。ただ自分の好きな歌とかですね、やっぱ自分の向こうのファンがあってですね、それを聞き取ろうと・・・

Q：なるほど。そうですか。それはさっき、行かれた塾っていうのはその外国語学校の、外国、さっきお話があった韓国語の塾みたいな感じのところですか？

A：はい。ですからそういう所で知り合いがいて、先生がいてですね、ちょっとそこに頼んで。ハハハ。ま、でも、たぶんですね、高校の、中国の高校は厳しいなですから、勉強する時間があんまり、その自由時間もないし、それで1ヶ月くらいでそこで一応入門しただけということで、ま、一応終わりましたね。でもまだ挨拶もできない。もう、話しかけても何にもできないというそんな感じで。ま、ちょっと残念だと思います。

Q：＜Bさんに向かい＞自分にとっての朝鮮語を含めて、中国の朝鮮族の、ま、全体にとっての朝鮮語でもいいですが、ま、どんなことをね自由に今感じるところ、ま、今話をしていく中で感じたことをねちょっと教えてもらおうとうれしいんですけどね。(B：はい。) どうですか。やっぱり大事にしていきたいなあとか、

B：はい。そうですね、やっぱりあの、先生がおっしゃったとおりに、朝鮮族は朝鮮語があ、話すことができなくなる人もだんだん増えてきましたね。あれがちょっと残念だと思います。はい、だからあの絶対に、あの、朝鮮語勉強しなさいとは言えませんですけども、あの、やっぱり自分の民族ですから大事にしてくれたらいいと思います。はい。

Q：そうですね。なるほどね。ここはもちろん朝鮮語学科とかあるんですか？

B：あります。遼寧大学にもあります。で、その学部ではですね、ま、朝鮮族、ま、朝鮮族の出身の言葉は一切禁止。えっと、朝鮮語学部になるんですか？外国語学院の中じゃなくて。

A：いや。この、うちのですね外国語学院の中じゃなくて、ですから専門的に。もう全て。ま、やっぱり日本語学部みたいにですね。いろいろ。もう全て。全部教えているんです。友達にも大連外国学院で、ま、朝鮮族、朝鮮語を専攻しまして大学院まで卒業したんですけど、ま、今年で一応就職されたんです。で、やっぱり朝鮮族じゃないんですけど、朝鮮語勉強して、(Q：あ、なるほど。)ま、大学の朝鮮語の先生にまでもしているんです。

Q：ほー、すごいですね。先生が。ハハハハ。

A：それに比べましたら私の方が結構もう恥ずかしいほど全然できないんですよ。向こうの方がもう何でも、もう知ってるくらいで。

Q：それから、ハングルのあれも、あの、書道みたいなものがあるんでしょ？(B：はい。)ハングルの書道。そういうの得意ですか？

B：得意ではありません。ハハハ。でも、ハングルと言いますか？

Q：あ、こっちではハングルと言わないのかな？(B：はい。)何て言うんですか？

B：朝鮮族の文字ですね。ハングルとはちょっと違うんじゃないですか？

Q：あ、朝鮮族の文字って何て言うんですか？普通は。

A：ハングル文字。

B：だから韓国と、中国の朝鮮族は同じ民族ですけども、あの、全然……。地域の差がありますね。あの、言葉とか。

A：でも、日本の方ですね、今、ま、ちょっと感心しているとはですね、今日本人がですね、今漢字を捨てずにですね今までやってきたことです。(Q：そうですね。)はい。すごいと感心しました。でも書いてる字を見ましたら、朝鮮でもですね、韓、韓国の方はまだ使ってるところがあると思いますけど、でもほとんど音読みになってしまっているんですけど。ま、それに比べましたら、今中国のこちらの漢字と日本語の方がですね、結構もっと密着しているような感じがしてるんですね。

Q：僕も漢字を使っているので便利だなと思いますけどね。もったいないなあ。

A：ま、本当に、ま、私も最近そういう感じを段々強くなってきたんです。やっぱりこの日本語における漢字というですね、これを今巡って私も今ちょっと考えてるんですけど。それで、やっぱりその、もしですね、例えば、日本語に漢字をなくしてしまったらですね日本語が成り立つかっていうですね、それに今ちょっと考えていましたらですね、もう日本語がなくなって、もう日本語が存

在しないというそんな気持ちでしたんですね。

Q：うん、そうですね。僕もむしろ、先生のさっきのお話、びっくりして、話してるのは朝鮮語なのに、黒板に意味をまとめて漢字で書く、それをこう、意味を通して記憶して勉強していくっていう、その話をびっくりして聞いてたんですけどね。

A：んー、でも朝鮮語よりも中国語の方がですね簡略に書けるしですね、ま、それで意味が全体に通じる・・・

Q：で、今、先生、その、学校の先生、何の授業ですか？数学でも何でもいいんですが。

A：ま、すべての授業、歴史にしても地理にしてもですね。政治にしてもです。喋るときは朝鮮語です。で、まあいろんな出来事とか事件の・・・とかね。ま、いろいろ話をしているんですけど。先生いっぱい黒板にですね、でもたくさん、特に歴史の授業になりますといっぱいいっぱい書くんですけど。そのメモはすべて全部中国語でした。ですからそれを一生懸命耳で聞きながら、それをメモしたんですね。

Q：へえ。それは面白い話で。

A：ですから、そういう勉強の仕方まあなかなかいいんじゃないかと思っていたんです。

Q：教科書はもちろん朝鮮文字ですよ。

A：そう。ですから、まあ全体的にそれもすべて全部ですね。ま、朝鮮語で。ま、みんなが一応全部読めるようにですね、しているんですけど。黒板に書く文字は、やっぱりその一応ポイントの方はですね、すべて全部中国語で書いたんです。

Q：それ、それはあの一、やっぱり漢字でこう意味がぱっとわかって、それがまた統一試験のようなこともあるしっていう、そういうやっぱり受験、受験だとか・・・

A：いや、かえって逆にですね。それ先生が中国語で書いたでしょ。あとはですね、私の場合は中国語でその試験を受けましたんですけど、ま、他の多くの人たちは朝鮮語でまたそれを答えるんですから。それを一応全部理解した上でですね、また朝鮮語にまた直して、一応自分で理解してそれを返答する時はそれを書かなくてはいけません。ですから両方の回転の練習ばかりしてたような感じで、きたんですね。ですからそのたぶん、そのおかげでですねやっぱりまあ一応言葉の理解の上でですね、やっぱりすぐその言葉がでてくるんですね、やっぱり。そういうメリットがあったような感じもしました。

Q：先生のお宅のお父様お母様は、中国語が使われたんですか。

A：中国語を多く、ま、使ったんですね。

Q；それはどういう理由で？お父様お母様は中国語の仕事だったんですか？

A；やっぱり仕事上でですね、周りが全部ま、ま、漢族の人で学校にいましたですから、それ、それで全部で。仕事上で、やっぱりいたんですから、まあたぶんもう使い慣れたという感じもするんですね。逆に言いますとですね、それを忘れていたわけじゃないんですよ。例えばですね、その、親戚とか何か人がいましたらですね、まだ同じようにですねその民族言葉で話をするんです。でも、それがですね、長年経ってですね言いましたら、面白い話なんですけど、突然ですね、何か親戚とか親族の人たちが訪ねてきたり、電話が来た場合はですね、うちの母なんですけど、急に言葉が出てこないというか、(Q；あー。)言葉がうまく表せないとか、ああこれどう言ったらいいかちょっとわからないとか、かえてですね、うちの母もやっぱり中国語のほうが便利だなと言ってらるんですね。でも、うまく使いこなせるとは言ってないんですけど、でもやっぱり中国語のそれがですねやっぱり、まあ、簡単明瞭ですね、たぶんそういうところではまあ一応、まあいいと言われました。

Q；あー、そうですか。それであの、全部朝鮮の学校に行かれたんですよ？

A；はい。ですから自然にその時もですねやっぱり、んー、ま、その周辺にもまた別の学校が、中国の子どもたちの学校もそばにいましたんですけど、ま、それに行く、最初だからたぶん行く気にはなっていないとか、ま、自然にですね、その自分のですね、その朝鮮族の学校に行くべきだと思っていたわけです。

2 話し手C (1986年生まれ・男性)

Q；ずっと朝鮮族の小学校と中学校高校と、行きましたか。

C；はい。

Q；お父さんとお母さんは朝鮮族ですか？

C；はい。そうです。

Q；今の、この瀋陽市内には小学校、朝鮮族の小学校っていうのはいくつありますか？

C；市内は、1つ2つ、4つくらいですね。

Q；中学はいくつくらい？

C；中学は、3つか4つくらいですね。やっぱり。

Q；あー、そうですか。じゃあ高校も一緒くらいですか？

C；高校は3つ。3つですね。

Q；で、あなたのお父さんとお母さんが、やっぱり、朝鮮族の小学校に行った方がいいと言う・・・

C；いや、最初はそう、まあ賛成してなかったんですけど、とりあえず中国だか

らやっぱり中国語とか、中国の文化しっかり身につけた方がいいと言われて、小学校の時、あの、飛行機で来たんじゃないですか。瀋陽に。で、中国学校に通わせた方がいいって、お父さんが。(Q;うん。)で、でもこちらは、いや言葉があまり通じないので、やっぱり朝鮮族学校行きますって。(Q;あ、あの、Cさんが?)はい。こちらが言いました。

Q;子どもの方が言ったわけですか。

C;あ、はい。やっぱり何か、ここの朝鮮族学校と、あの、吉林省の延辺の朝鮮族の学校とちょっと違います。こちらの学生さんたちはみんな中国語がペラペラで、やっぱり朝鮮語もできますけど、やっぱり中国語がうまい。(Q;うん。)でも、延辺自治州だったらやっぱり朝鮮語が何か普及していて、中国語もちょっとわかりますけど、小さい頃はあんまりわからないですよ。で、とりあえず中学校高校まで勉強して、なんとなくわかるような気がします。はい。

Q;そうすると、Cさんはもうこっちでずっとで、小学校では中国語の授業がありますね。(C;あります。)でも、普通の語文とかの授業は全部朝鮮語ですよ?

C;いえ、違います。やっぱりあの、国語や言語というのがありますが、これは主に国語ですね。で、中国語ありますよね。それが漢語で。で、他の数学とか物理とか、やっぱり教科書は全部朝鮮語で書いてある。(Q;うん。)そういう教科書なんですけど、(Q;はい。)先生によりますとやっぱり、ある先生は中国語で言います。でもある先生は朝鮮語で。でも今ちょっと特別な何か例として、やっぱり中国語と朝鮮語を混ぜて使う方もいますし・・・

Q;あの、授業をしていく中で?

C;はい。はい。だから今朝鮮族はやっぱり、今の子どもたちはやっぱり朝鮮語と中国語を混ぜて使う場合が多いです。

Q;あー、なるほどね。ちょっと最初に聞きますが、あなたの自分自身の朝鮮語能力ですね、家庭ではもう朝鮮語だけですか?

C;はい。主に朝鮮語。漢語も使います。

Q;それはどういう時に?

C;だからやっぱり、家のお父さんがやっぱりビジネスとかやってるんで、で、そういう会社とか行ったらよく中国語で言ったりしますし、で、あとは、家のお母さんはちょっと民宿やったんで、あの、お客さんとかはみんな中国人で僕もよく喋ったり。はい。でも、あの、親とふたりでいるとかそういう場合はやっぱり朝鮮語の方が多くですね。

Q;そうすると、自然にうちで話してる時も、何かのときに漢語になったら漢語で喋りだす?

C;あ、はい。はい。

Q ; 自然に。こう。(C ; はい。)それでまたいつか朝鮮語にまた戻ったりとか。(C ; はいはいはい。)そういうふうにごう、スイッチとか切り替わるようになってる。
C ; はい。でもある友達の場合だったら、やっぱり、お父さんとかよくビジネスでやってるんで、中国で。長い間。で、中国語がペラペラになって朝鮮語より中国語を使う率が高いですよ。で、子どもも自然と学んで、ずーっと中国語ばかり。はい。

Q ; なるほど。じゃあ、あなたの家では、家の中では、朝鮮語が多いですか？

C ; はい。はい。

Q ; だけれども、あの、中国語も出てくるということですね。

C ; はい。

Q ; それから、あの、この瀋陽の街の中で買い物にしたり、郵便局へ行ったり、そういう時に使う言葉はやっぱり漢語ですか？

C ; はい。それは。

Q ; で、お店に行って朝鮮語を使うお店もありますか？

C ; あります。やっぱりシター (?) にコリアンタウンがありますから。しかも北朝鮮料理屋もたくさんあって。

Q ; で、それはやっぱりコリアンタウンって言うんですか？そういう名前が付いている？

C ; いややっぱり韓国人とか日本人の方にはやっぱりコリアンタウンって言っていて、中国人同士ではやっぱり、シター、ま、そういう所の地名で。そしたらもうそこはもう、朝鮮族の人はたくさんいます。

Q ; そこではもうすぐ朝鮮語で会話をするってことで。(C ; はい。)で、あとですね、えっと、あなたの場合は、もしみんなの前でスピーチをしたり挨拶をしたり、演説をしたり、あるいはこう文章を書いたりっていうことでいくと、中国語は、漢語はあの、自信があって書くことそういうことはできますか？

C ; いや、それは自信あまりないですね。やっぱり大学に入って周りの友達がみんな漢族で、彼らと普通の時に話すのはもちろん大丈夫なんですけど、やっぱり、専門知識とかそういう授業に入るとそういうとりあえずレベルが彼らほど高くないから。でも普通に表すのは問題ないです。(Q ; あー。)はい。でも、少しレベルはちょっと落ちていていると思います。

Q ; じゃあ自分の能力としては、あの、えー、朝鮮語の読んだり書いたりするのは問題ない？

C ; あ、それは問題ないですね。はい。でも、それも人によりますよ。とりあえずそういう中国語を好きな子もいるし、学校の中に。(Q ; はい。)で、朝鮮語を好きな子もいるし。はい。やっぱり親たちのそういう影響をたくさん受けているんで、もし親さんたちが中国語をたくさん喋ったりしたら彼らの中国語も

うまい。でも朝鮮語はあんまりうまくない。

Q：あー、そうですか。じゃあ同じ、あの、中学校高校の時も朝鮮の学校なんだけど、生徒はいろんな生徒がいたんですか？

C：いますよ。はい。かなり。しかもあの、そういう中学校によります。もしあの、瀋陽市内と離れているそういう中学校やったらやっぱり朝鮮語使うそういう率が高い。でも、市内やったら先生たちもかなり中国語を喋っているんで。

Q：あー、そうですね。で、先生が授業の時にそういった、漢語を使う先生と朝鮮語ばかりの先生というわけですか？

C：はい。でも主に中国語を使っています。なぜかという、先生たちはやっぱり中国で大学を卒業して、そういう専門知識を漢族の大学で勉強したんじゃないですか。で、一つ除くのはやっぱり朝鮮語。その先生はやっぱり朝鮮語を勉強してるんで。はい。

Q：それというのは、小学校の時はいま全部漢語を使う先生もいたんですか？

C：僕の時代だったら、少ないです。でも中学校からどんどん多くなってきて、やっぱり若い先生。はい。

Q：なるほど。で、高校は更に多くなった？（C：はい。）そういうのは統一してこうしなさいとか、全体にはないんですか。

C：いや、それはないです。

Q：じゃあその先生方、一人一人の判断というか、先生方・・・

C：はい。やっぱり教科書はみんなそういう朝鮮語なんですけど。でも、そういう練習問題集とかは朝鮮語の本が少ないのでやっぱり中国語を使います。はい。高校統一試験とか大学入学試験とか、それは自分で選べれます。

Q：あなたはどっちでやったんですか？朝鮮語？

C：みんな朝鮮語。なぜかと言うと、朝鮮語でやったらプラス点が、5点プラスになります。優遇政策とかそういうのがありますから。はい。やっぱりでも、みんな数学とか中国語で解けた方がやりやすいんですけど、やっぱり朝鮮語使ったら何かプラス点が取れるから。

Q：では、朝鮮語ができた方が生活をしていく上で、有利だと思います？

C：あ、思います。

Q：それから、朝鮮語を今あなたはもちろん使うわけですが、それは将来自分にとってプラスになる、いい方に働くと思いますか？

C：それは絶対そうだと思います。はい。

Q：今この中国に住んでいるんですが、やっぱり中国に住んでいるけども朝鮮族であるから、朝鮮語はやっぱり出来なくてはいけないと思うか、別に中国の朝鮮族だけ中国だから朝鮮語はできなくてもいいんじゃないかって思うか。どうですか？

C：んー。確かにそう思う場合もありますね。たぶん小さい頃はやっぱり中国語ペラペラになりたいから中国語学校とか羨ましいんですけど、でも、とりあえず高校入って大学過ごしたらま、就職とかありますし、やっぱりこちらにはそういう役立つそういう面もあるんじゃないと思います。

Q：そうするとね、朝鮮語はできなくてはいけないうって質問に対しては、ま、どちらでもいいって言うかね、できればできた方がいいですか。

C：できた方がいいと思います。

Q：それから、あの、韓国語と朝鮮語はやっぱり違うんですか？

C：はい。違います。

Q：それはわかりますか？

C：わかります。

Q：どういうところが違う？

C：外来語の使い方とか、アクセントとか。韓国の国内もいろいろ方言があるじゃないですか。それと同じ通りに、中国の朝鮮族も、そういう吉林省の朝鮮族とこちらの朝鮮語も違います。アクセントが。

Q：そうすると、韓国語というのもちょっと違う、聞いたらちょっと違うってわかるわけですね。(C：はい。)で、韓国語が上手な人っているのかどうかわからないんですが、(C：はい。)もしね、韓国語が上手な人がいたとして、それ朝鮮族ですが、その朝鮮族の人を見て、あなたはその人を羨ましいって思うか、それとも変だと思うか。

C：いや、普通だと思いますよ。

Q：普通、あ。特に感じないって。

C：はい。だから、そういうアクセント出そうとしたら、ま、自然と出すから、全部。普通。ほとんど。

Q：中国朝鮮族のですね朝鮮語について、やっぱり朝鮮語はもう中国の社会だから知らない方がいいって思うか、やっぱり知っておくべきだと思うか、ま、知っていてとても幸せだ、誇りだと思うか、朝鮮語が今使えることに対して、どう思いますか？

C：良かったと。(Q：良かったと思う。)はい。とても。

Q：もしあなたの子どもとか孫、将来そういう子どもに、あなたは朝鮮語を習わせることについて、習わせたいと思うか習わせたくないと思うか。

C：習わせたいと思います。

Q：あー、そうですね。それから、今あなた日本語を勉強しているということですが、外国語学習の時、一番学びたい外国語は何、何語ですか？

C：英語です。

Q：あー。でも日本語が非常に上手だと。

C: いや、でも、僕の中学校はとりあえず英語勉強したい学生がたくさんいたんで、やっぱり英語は世界語だし。で、日本語クラスもあります。特に東北地方は。はい。やっぱり10クラスあったら3つくらいは日本語で、他は英語やから。でも、それは自分が選ぶんじゃなくて学校側からそういう(Q: あー、そうなんだ。)はい。あなたはこのクラス、あなたはこのクラス。で、日本語クラスに入ったんです。

Q: じゃあ、えーっと、高校からですか? 中学?

C: 中学校から。

Q: あー、じゃあ中学校3年、高校も3年。(C: はい。)それで大学があって、(C: はい。)してるんですね。(C: はい。)だから、いや、それにしても上手だ。専門学科でもないのに。

C: でも2年生の時もう交換留学で、大阪留学しました。

Q: ああ、そうなんだ。あの、先ほどお父さんお母さん、子どもは一人ですか?(C: はい。)で、おじいちゃんとかおばあちゃんっていうのは当然もう朝鮮語で喋ります?

C: はい。

Q: それから、あの、従兄とかそういう親戚ですね、やっぱり朝鮮語?

C: はい。

Q: それから、あの、今住んでる所ですね、そこは朝鮮族の人が多いですか?

C: 多いですね。やっぱりシター、コリアタウンの近くに住んでいるので。

Q: そうですか。そうすると、顔を知ってる人で、朝鮮語で話すおじさんおばさんと一緒になると、何か話をする時に朝鮮語を使って話をするおじさんおばさんっていますか?

C: それは多いですね。

Q: じゃあ朝鮮族の人だってわかってれば、ま、わりと朝鮮語を・・・?

C: はい。若い人と比べたら、年上の方はやっぱり朝鮮語うまいし中国語下手だから。はい。

Q: ま、何か聞かれたら朝鮮語を使うということですね。(C: はい。)そうすると、おじいちゃんやおばあちゃんとか、お父さんお母さんから朝鮮の物語っていうか、昔話、朝鮮族のもし話があればそれとか、童謡とか、ま、アリランみたいな童謡とか。そういうのはいっぱい?

C: あー、それはそれはよく使いますね。年上のおばあさんおじいちゃんとかよく知ってるし。

Q: それをよく聞かされて?

C: はいはいはい。

Q: 物語をね。

C：はい。

Q：そうですか。そうすると、もうあなたの場合は、もうそれで小学校も中学校もそして朝鮮族の学校だったんで、(C：はい。)朝鮮族の学校に当然漢族の子どもが来ることは絶対にないですね？

C：いや、でも今は居ます。(Q：あ、そうですか。)あの、高校。(Q：あ、高校なんかは。)はい。やっぱりその他のクラスは主に漢族、何か集めて。

Q：それはどうして？

C：やっぱり、あのー、うちの学校で朝鮮語と韓国語と、あの、日本語とかいろいろ教えるから。彼らは卒業してから主に留学行く学生、そういう目的として入学した人が多いです。

Q：はあー。そうすると、その彼らはまだ高校から朝鮮語を始めるから(C：はい。)、あの、朝鮮語を全然知らないですね。(C：はい、はい。)そうすると、外国語として朝鮮語を勉強するわけね。英語とかじゃなくてね。

C：はい。はい。はい。彼らも英語も勉強します。プラス朝鮮語で。はい。

Q：ほー。それはそういう生徒が集まってますか？

C：はい。今どんどん。なぜかという、今朝鮮族の学生がどんどん減ってるし、だから。(Q：なるほど。)はい。そういうことしないとちょっとだめだから。

Q：あ、学校側がむしろそうして生徒募集をして、(C：はい。はい。)で、その子ども、学生に向かって授業をする。

C：そして、あの、留学生向けのクラスもあります。で、韓国人募集して、(Q：あ、韓国への。)はい。で、なぜかという今、中国の北京大学とか留学したい、そういう韓国人もたくさん居ますんで、で、まあうちの高校行ってみたら後ろ側に大きな建物があって、たぶん500人くらい1000人くらいの韓国人留学生います。

Q：高校の時から？(C：はい。)で、彼らはじゃあ北京大学へは全員入れないんで・・・

C：はい。あ、でも中国語勉強したい。

Q：したいと。(C：はい。)

Q：いや、でもそういうのは、あなたは第三中学、第一中学？(C：第一中学校。)非常に珍しい例ですか？ですよね、きっと。

C：ですよね。やっぱり延迎と違って。はい。

Q：やっぱり瀋陽の方で北京語、中国語が勉強できて、都会だし、そういった施設もちゃんとあるし、でもそういう学校はそんなに多くはないですね。そういう韓国からの留学生を集めてって言うかね。

C：たぶん珍しいと思います。でも、お金を儲けるのはいいんじゃないですかね。

Q：学校としてはね。(C：はい。)でも、中国にいる、国内のね、漢族の生徒も

入るといのは面白いですね。(C;はい。)それ、あなたの高校の時には何人くらいいたんですか?。クラス、漢族の。

C; たぶん僕が卒業する時代で、あの、スタートしたと思います。(Q;あー。)で、あの、後輩から聞いたら。(Q;あ、そういうことですか。)はい。

Q; いや、それってすごくいいなあとって今話を聞いて。

C; お互いめぐり逢ってるし。はい。

Q; そうですね。それちょっと凄く面白いですね。あの、あなたにとって朝鮮族ですよ、(C;はい。)だけどここは中国の、国民としては中国人ですね。そこら辺で何かこうちょっと朝鮮族だからいじめられたとか・・・

C; いや、それはないですね。

Q; そういうことはないですか。

C; やっぱ日本に行ってそれはちょっと感じたのは、日本の在日朝鮮人とちょっと差別されてるような気がしますけど、(Q;その通り。)それと比べたら、僕は全然ないですね。やっぱ。逆に漢族の友達から羨ましいと言われて。朝鮮語、韓国語もできるし、そういう話聞いてるんでとてもいいと思います。しかも、中国の少数民族のそういう政策がとてもいいので。はい。

Q; なるほどね。だからそういう意味では大学留学の時も、大学を終わってから就職を一般会社企業の時も(C;はい。)、そういう差別はない?

C; あんまりないですね。でも、国のトップのそういうリーダーとかそれはちょっと難しい。

Q; 難しい。ま、人数もね。

C; はいはい。

Q; あの、小学校中学校高校とも、教える先生はみんな朝鮮族の先生ですか?

C; はい。朝鮮族の先生です。

Q; あー、中国語の先生も。(C;はい。)そうですか。それはもう完全に朝鮮族の方。

C; はい。

Q; 今の、あの、遼寧大学ですね、やっぱり朝鮮族の人はやっぱり結構多いんですか?

C; やっぱ遼寧省から集まっている学生さんがいますが、少ない方ですね。やっぱ。

Q; あー、そうですか。で、今、普段大学で朝鮮語を使うってことはあるんですか? 友達同士で。

C; 朝鮮族の? はい。

Q; 朝鮮族の人といるとやっぱり朝鮮語が?

C; でも普通に中国語喋ります。もう慣れてるんで。周りの友達も。

Q；あの、中国語を勉強していく時に、身につけて自分の言葉としていく時に、一番苦労した点、困った点は？

C；あ、それはやっぱり、成語。成語とか昔の言葉とか。(Q；うんうん。) やっぱりうちの朝鮮族の学校では、簡単なそういう中国語、基本的なものを教えています。高校生、これは高校生の中国語レベルは、漢族の中学生レベルと同じくらい。(Q；なるほどなるほど。) はい。昔の成語とか勉強しないです。

Q；なるほどね。(C；はい。) あの、そういった古典とかねやっぱり弱くなると思うしね、一旦漢族はみんな暗記して覚えるでしょ。

C；はいはい。でもあまり、あまり使う時、場合が少ないと思います。

Q；それでね、それはよくわかるんだけど、例えば、あの、オノマトベって言う、感覚を表す言葉とか気持ちを表す言葉とか、その、そういう表現したい微妙なね、あの、ニュアンスって日本語で言うんだけど、(C；はい。) そういうのって言うのは中国語について (C；はい。)、自信がありますか？

C；あんまりないですね。僕は。はい。でもそういうふうには正式な場所とかで話したりスピーチしたり、普通にはできますけど上手にはできないですね。

Q；で、もしあなたが小説っていうか物語を書くときには、やっぱり朝鮮語の方が書きやすいですか？それとも中国…

C；ですよね。朝鮮語の方が。

Q；なるほどね。で、今普通にやっぱりそういった論文っていうか文章を書くときは中国語で書きますか？

C；それは中国語で。はい。

Q；そういう時はやっぱり頭の中は (C；頭はいっぱい。)、中国語にもう切り替わって。(C；はいはい。) 中国語がでてくる？

C；いや、わざと切り替わる必要はないですよ。自然と変わる。

Q；自然に変わるんですね。(C；はい。) それは非常に面白いですね。そうすると今、もう一度確認ですが、中国語を使っていて一番困っているのは、もちろん公のそういう立場の時の話し方が下手だって思うかもしれないけど、それ以外で普通に生活で喋っていて、あ、中国語だとうまく表現できないとかそういうようなことはないですか？

C；中国語表現するのが困るんじゃなくて、中国のそういう漢族の文化とか、(Q；うんうんうん。) そういう完全に同じだとは言えないですね。だからちょっと違う所はあって、彼らもそういう気持ちとか、特にビジネスやる時そういう漢族の特有の文化があるんです。それがちょっと違って、やっぱりこれは就職にあんまりよくない、マイナス面になるかなと思います。

Q；あー。なるほどね。そういうちょっと非常に細かいところで感じる場所もありますんでね、きっと。

C：友達付き合いのし方とか、それが。

Q：なるほどね。あ、やっぱり小学校中学校高校で一応朝鮮族の中で一応付き合い合ってるから、(C：はい。)なるほどね。

C：だから僕がもし将来子どもがいたら、主に小学校までは朝鮮族学校に通わせたいですね。やっぱり朝鮮語身につけさせたい。で、中学校からは漢族の学校。なぜかというとなんかやっぱり中国人だし中国の文化、将来のビジネスとかやる時もそういう文化しっかり身につけなきゃいけないと思いますんで。

Q：なるほどね。そうするとまた学校で生徒の数が減るのでまた漢民族入れますかね。学校は。

C：どうですかね。

Q：そうですね。いや、非常にあの面白い話を聞かせてもらいました。あの、将来仕事はどう、大学院終わったら何を。

C：いや、僕はもう去年卒業しました。

Q：あ、そうですね。で、今仕事？

C：でも今日は休みだから。僕の友達、大学院通ってるんで。

Q：あー、それで声をかけて、(C：はい。)申し訳ない。(C：いいえ。別に。)あ、もう今働いてらっしゃるんですか？

C：はい。瀋陽師範大学で、あの、言語、韓国語と日本語教えてます。

Q：あ、そうなんだ。先生なんだ。

C：でも言語学校みたいな先生で、正式な先生にまだなってる。

Q：じゃあこれからじゃあまた勉強して？

C：いや、でもこれでもう仕事辞めたいと思います。

Q：会社か何かへ？(C：はい。)いや、その方が面白そうですね。(C：はい。)そうですね。なるほど。あなたはそうですね。活発な感じだから大学で日本語教えるよりは。

C：あー、そうですね。何かつまらない。同じことばかり教えてるから。(Q：そうそうそうそう。)自分の知ってるもの、でも自分はどんどん減っていったるし、知識とか。はい。

Q：なるほどね。学部、大学時代は今さっき何を？

C：あの、観光経営学科。

Q：じゃあ今仕事探してる場所ですか？

C：まあたぶん留学行くとかそういう・・・

Q：そういうようなことを考えている。ああそうですね。いや、ありがとうございます。ちょっと向こうが終わるまでちょっと雑談というか。(C：はい。)でもそれだけよく日本語ができれば本当にいいですね。まあ。

C：ありがとうございます。でも日本語勉強し始めてよかったと思います。なぜ

かと言うと、今英語よりも中国で英語使う人多い。でも日本語喋る人少ない。だからそういうメリットが。

Q：あー、なるほどね。それで英語ができて日本語ができてね朝鮮語ができて…まあ広がりますよね。(C：はい。)でも、これずっとあなたの場合はどっかへ行かないで瀋陽の家からずっと大学へ(C：はい。)通って…

C：いや、大学時代は寮に住んでいました。

Q：あ、寮に。じゃあまた次のステップはどこかへ留学をして、また新しい世界へ広がっていきますね。今回こういうお話を聞いて、今日のお話、でもすごく面白かったなあ。教科書は朝鮮語で、黒板書いたり喋ったりするのは中国語というのね、信じられないですよ。全然違う言語でしょ。本来。

C：でも、中国で生活していてやっぱりテレビとかニュースとか日常生活。でも大事なのはやっぱり親、親だと思います。(Q：そりゃそうだ。)親さんが何か、中国語朝鮮語全部完璧にやらないと子どもも影響を受けて。はい。

Q：だからね、家庭がすごく大事ですね。

C：家庭教育。はい。

Q：そう、本当にそうなんです。だから家庭教育、今の日本の話で言うと、ブラジル人の両親は日本語ができないですよ。彼らは。(C：あー。)親が。で、(C：親さん?)そう。日系ブラジル人の親は。

C：あー、それはわかります。

Q：3世とか4世なんです。彼らは。(C：あー。)そうすると、もうブラジル人と同じなんです。日本語が全然できない。そうすると、家庭は日本語はまあだめなんだよね。家庭は。(C：はい。)で、学校はまた子ども同士の言葉だから、そう生活の言葉はできてもしっかりついていけないですよ。(C：あー。)だから中途半端、どっちもできない。そういう子どもができちゃう。そうすると考える力とかそういうのが全然育たない。で、やっぱり文字を使って勉強するから我々は考える力ができるんです。だからすごい大変なんです。

C：ですよ。(Q：うん。)やっぱりうちの朝鮮族はちょっと違いますね。

Q：えー。違いますね。

C：朝鮮族だったら昔からもうずっと。(Q：ええ。ええ。)でもたぶん世の親さんたちがしっかりすぎたら次の時代は大丈夫なると思う。

Q：うん。(C：はい。)だからあの、それでね、今聞いて面白かったのは、やっぱり子どもの頃見たテレビというのは、中国のテレビ？

C：中国もちろん…

Q：も、見てるわけね。(C：はい。)子どもの時から？

C：はい。

Q：はい。朝鮮語のテレビも見る？

C ; それも延滞だったらたぶんあります。

Q ; あ、こちら辺ない？

C ; ここはないですね。自治州だけそういう・・・

Q ; 公用語のニュースとかも (C ; はい。はいはい。) 自治区はあるよね。

C ; はい。でもこちらはないですね。

Q ; テレビは全部、じゃあ、テレビをつけると中国語？

C ; はい。はい。

Q ; じゃあ子ども、テレビ見てたらやっぱり・・・

C ; はい。自然と、(Q ; 入ってくるよね。) アニメーションとか見たら… はい。

(Q ; あー。) しかも、僕の友達の中に中国語うまい友達いますけど、朝鮮族で。

(Q ; うん。) 小さい頃から、あの、日本人、あ、いや、中国人の漢族の友達とよく遊んでるんで、で、中国語もうまくなってるって言うか。(Q ; あー。) はい。

Q ; そうすると、あの、漢字ね、(C ; はい。) 中国語の漢字は、でも小学校の時から少しずつ中国語の授業では習ったんですか？ 小学、小学校の時に。

C ; はい。中国語もあります。

Q ; ありましたよね。そういう時は書き方も・・・

C ; はいはい。少しずつ。

Q ; 週に2時間くらいですか？ (C ; いや) もっとかなあ。

C ; 朝鮮語と同じですね。

Q ; あ、あじゃあ、やっぱり結構じゃあ勉強しましたね。

C ; はいはい。

Q ; いやでもね、本当に高校の時に朝鮮語の教科書で中国語で喋るっていうのはね、すごい不思議な感じがするんですよね。

C ; でも面白いですよ。(Q ; うん。面白い。) 日本人が日本語、英語教える時は英語と日本語混ぜて一緒に使う。そういう場合と同じですね。

Q ; ああそうか。(C ; はい。) 僕らが英語の授業をする時に、ま、日本語で喋って英語言ったり、英語でこう言ったりね、(C ; はい。) そんな感じかなあ。

C ; はい。でもある先生は最初から最後まで全部中国語、漢語で喋る先生もいるし、逆に、逆でそういった方が僕らはいいいですね。やっぱり。なぜかという、朝鮮語だったら一つの意味を表すには長く言わなきゃならない。でも中国語だったら短く言える。

Q ; なるほど。そういう良さが中国語はあるんですね。(C ; はい。) だけど、その、教科書を中国語っていうか漢語の教科書にするわけにはいかないんだね。

Q ; やっぱ朝鮮族の学校だから。

C ; ですよ。やっぱり民族教育とかもあるし。

Q：そうか。でもちょっと面白いなあ。そっかあ。そういう教育ってどういうふうにして成り立つかちょっと今聞いて具体的にどういうイメージかになっていうのがうまくピンとこないんだけど、でもとても面白い話ですね。

C：はい。やっぱりそういう、そういう彼らも日系ブラジル人とかいろいろ合う、ちゃんと合う、そういう政策とかしていったらたぶんいいと思います。

Q：そうですね。だから完全に母語である朝鮮語と、ま、骨格の中国語をうまく使いこなすね、うまくこう勉強してっていうか習って使えるようになってるっていうことですよ。

C：はい。

Q：ま、ちょっと彼らは日本人ではないので、ま、一応外国人なのでそう簡単にはいかないですが、ま、そうですね。僕は、やっぱり朝鮮学校みたいに、彼らブラジル人学校を日本のお金で作って、彼らが、今言ったように、友達日本人で日本語を喋りながらも、あるいはテレビで日本語を見ながら、でもポルトガル語で授業をやってっていうね、(C：あー。) ことも考えられるなあ。

C：そっちの方がいいですね。やっぱり。なぜかという、いきなり日本に入っで、日本語で勉強する。でも家へ帰ったらまたブラジル語とか喋る。

Q：うん。親は教えてくれないので、その、ちょっとこれはどういうことって聞いてもわからないのでね。(C：はい。) だから親が説明する政治のこととかね、親がこうだよって。それができないわけですね。会話してもらえないんですよ。

C：たぶん彼らはたぶん困るのは、一体自分ほどの国に属してるかそれもちょっと困るか。

Q：その通りですね。

(なかだ・としお 本学教授)